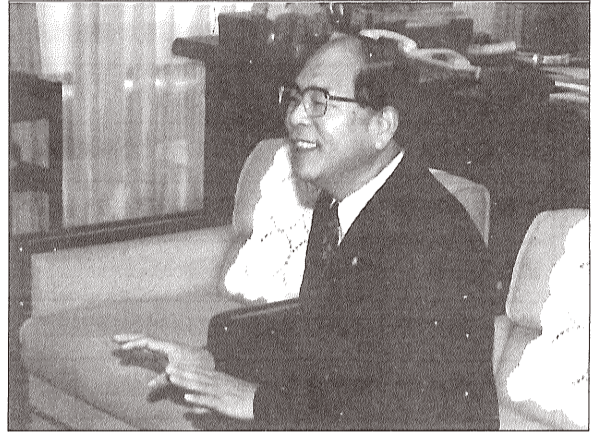


平成六年を希望の年に

西野大田区長に聞く



西野区長

新しい年、平成六年が幕を明けました。しかし、厳しい不況、交通問題や地区センター建設計画の遅れなど、城南島をめぐる課題も少なくありません。新春に当たり、西野大田区長を訪問し、区の産業政策や、城南島に対する考えを率直に伺いました。

◆ ◆ ◆
明けましておめでとうございます。平成五年は大田区にとっても変化と試練の年であったと思えますが、一年間を振り返られての御感想はいかがですか――

まず紙面をお借りして、城南島のみならず新年のご挨拶を申し上げます。九三年はかなり厳しい年であったことは間違いありませんが、その中でも業種的にいいものがなかったわけではない。もちろんトータルでは良くなかったが、良いところ悪いところ構造的なものが出てきている。

やはりそれは、今日が変革の時期で、産業界にとっても大きな曲がり角じゃないかというそんな気がしています。じゃあこれから何をつくり出し、何を勉強していったら良いのか、そういうことを真剣に考えなくちゃならないという時期だと思えます。区としても、大田区の産業、製造業はどう変わるか、どう取り組んでゆく方向が良いのか、有識者による産業ビジョン委員会を発足させ、取り組みを開始したところです。

大田区は多品種少量の生産を軸としてきたが、研究開発や、金型、設備投資など、その部分が圧縮され、大きな影響を受けていると聞いています。けれど、特定の処では規模拡大や、将来への発展性を切り拓いているところもでてきています。変化に対して、従来型でなくどうシフトしてゆくか、ここが難しいが大切なところ

です。産業ビジョン委員会の初会合で、中小企業の後継者問題でも困っている事を提起したら、「そうじゃない。心配するのではなく、魅力を作り出すような事をすれば、自然と、後継者は生まれて来る」という論議になりました。

下向きじゃなく、将来への明るい希望を打ち出すことが今は大切なのだと思います。そう見れば、ヒントは幾つも生まれてきているのではないのでしょうか。こういう見方を下敷に経営者の皆さんもチャレンジしてほしい

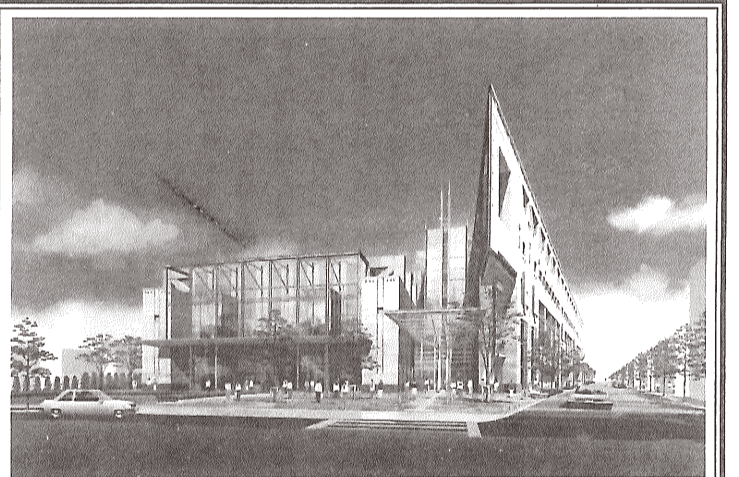
と思っています。たして居るところもあります。また我々が大きく期待して居りました、地区センターも頓挫しております、臨海道路も着工しました、産廃予定地の行方も気掛かりです、また最近ヒヤリングのあった新たな東京湾埋立(城南島地先)の問題等々、年々新しい問題も含め解決の課題が山積しております。連合会も発足以来八年になります

が、当初とは質量ともに大きく変化しております。したがってそれに見合った、機能し易い体制に人事も含め改善しなければと思っております。幸い、我が連合会には他に類をみない活力ある「ビジョン委員会」なるものがあります。試行錯誤の時期ではあります

ありますが互いに力を出し合ってこの城南島の明るい未来の為にがんばりましょう。

政の重点をどの方向に向けられますか――

いよいよ一九九四年を迎えましたが、安定して経営ができる事に、区がどう協力できるかを追求したいと思っております。その点では融資のお手伝いを強める事、また、蒲田の新しい産業プラザを建設して、また、東京都の力も得て、技術的な相談相手になれるという拠点作りをする事によって、皆さんにも何らかのヒントが出来るような場作りを行ってゆこうと思っております。



大田区産業プラザ

大田区産業プラザ(仮称)は、現在の大田区産業会館を発展させ、区内の産業を発展させる21世紀の拠点となる事を目的に建設されるものです。京急蒲田至近の、市場跡地に床面積二万三千平方メートルに、展示ホールや、経営・技術支援コーナー、情報提供コーナー・交流活動コーナー・レストラン等の施設を設ける事が計画されています。また、現在赤羽にある都立工業技術センターの機能が一部移転してくるのも特徴の一つです。しかし、この施設が本場に目的を達するには、私達が本場に利用できる機能や有り方を、提案し、住民参加で本場に役立つものに仕上げてゆく事が大切です。(平成八年三月開館予定)

をいま作る等、環境整備に力を入れたいと考えています。

地域に仕事を集めてくる役割をになつている中堅型の企業に対してはどうお考えですか――

受発注懇談会というものをやっていますが、最初はどれだけの人が集まるか心配しましたが、区外の企業の人たちも含めて、意外と多くの方に集まっていたので、返って驚いてしまいました。この中でも、億単位の話が出、具体的な成約に結びついたことも聞いています。このようなチャンスをもっと増やしたらよいのかなと思っております。

私達は城南島で働いていますが、区は城南島に対する位置づけをどう考えておられるのですか――

城南島、京浜島は大田区産業の中でも大きな位置を占めています。ただ、人が住まないところとなっており、既成市街とは認識が多少イコールとはいえない面も事実としてはあります。

これから、城南島、京浜島も含めて、道路管理がすべて港湾局から区へと移管されることとなり、道路整備はすべて区がやることとなったので、何か有れば、どんどん注文してほしいと思っております。交通アクセスについては、一昨年、大森・島部・蒲田をどうつなぐか検討しましたが、それだけではどうしても採算に合うものにならない。それじゃあこれからどうするかという事、やはり羽田空港にいかにつなげるかという事になるのではないのでしょうか。

具体的には、モノレールが良いか何がよいかもう一度検討しようということで、平成五年度より新たな検討に入っております。

城南島に働く人たちに、改めてメッセージをお願いします――

人間が働いて生活するには、理屈だけでは成り立ちません。いっぱい飲み屋だつて不経済なんていえない訳で、三千人もの人たちが出入りする場所には何かなければならないと思えます。ただ、それは役所流でなく、自分たちなりの泥臭い計画を作つて、工夫もしてほしいし、行政にもぶつけて下さい。不便な所で一生懸命やっている皆さんに対して有り難いと思っております。ただ、羽田に一番近い場所であり、将来的には必ず発展する地域だと私達も思っています。これからは、大田区のキーポイントの地域として考えてゆきたいと思っております。多少は時間がかかるかと思いますが、展望と意欲をもって取り組んでいって頂きたいと願っております。

長時間有り難うございました

西野区長のインタビューの中で「今日が変革の時期で、従来型からどうシフトしてゆくんか」という事が強調されていた事は、印象的でした。しかし、城南島等に対して「既成市街地とは認識はイコールとは言えない」と率直に言われている事、また「役所流でなく、泥くさい自分達のプランをどんどんぶつけて欲しい」と言われている様に、行政の力を引き出し、生かしていくには、城南島全体として自分達の要望をまとめ、ぶつけてゆく事が大切なのだという事を強く感じました。

賀正ごあいさつ 城南島連合会会長 猪狩 洋



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。城南島連合会に参加されておられる企業と、そこに働く社員の皆様には、昨年は大変きびしい経済環境の中、

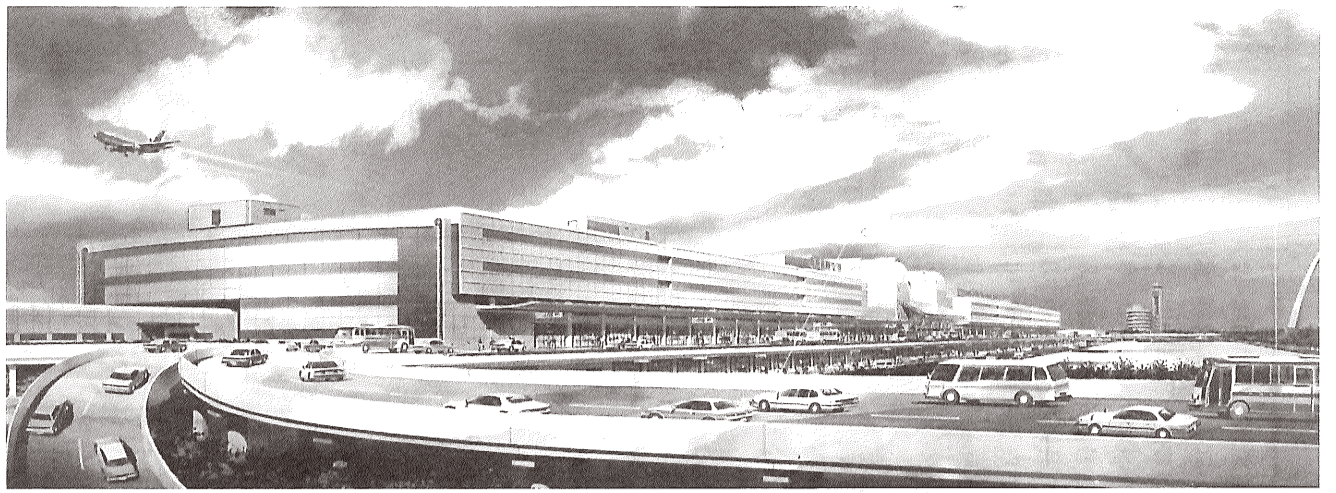
中で、企業の存続と発展の為に、大変な努力をされ、大きな成果を納められた事に深く敬意を表します。しかもこの度の不況は戦後最悪とも云われており、三年目の今年には正念場であろうと思えます。そこで国の施策に目を向けても現状では多くを期待出来る所もありません。ならば今年からはあらゆるチャンスに敏感に反応し、知恵を出し合い自らの企業発展の為に声を大にしましょう。連合会も年々その参加企業も増加し、島全体の様子も見えつつあります。しかし今日の経済環境のもとでは進出に困難を来

組合(企業)紹介

協同組合テクノ城南

〈代表者〉小野寺達夫
 〈所在地〉城南島2-5-3
 〈電話〉3790-3500
 〈出資金〉5,000,000円
 〈移転終了〉昭和63年10月

組合員名	代表者	業種	社員数	電話
東光電機(株)	小野寺達夫	自動制御システム・自動制御盤製造	8名	3790-5330
(株)エース	西村真理子	専用機械・治具設計製作	12名	3790-5500
誠精工(株)	池田晴彦	OA機器・弱電等プラ金型設計製作	4名	3790-1500
中山電機(株)	中山 毅	ガイド・サボ・リターンピン製作	9名	3790-5660
東京合成(株)	漆畑勝之	プラスチック射出・圧縮成型加工	11名	3790-5220
佐藤機械(株)	佐藤典一	プレス自動化・NCロールフィールド他	11名	3790-3200
富士工業(株)	寺川勝之	工業印刷・各種電気製品の装飾部品	11名	3790-5001
ゴト一製作所	後藤義徳	プラスチック成型・NC旋盤金属加工	4名	3790-5010
ニッソウ工業(有)	青木良夫	通信機・光学部品製造	6名	3790-5300
(有)オリオンテック	町田和彦	治具・金型一般機械・試作品製作	6名	3790-1600



海底トンネルで空港まで五分 空港を生かした事業展開を

昨年9月27日、羽田空港新ターミナルがオープンし、東京の新名所としても話題をよんでいます。城南島の住民にとってもっと大きな事は、空港が車で五分余りの極めて身近なものとなった事でしょう。城南島から大田区市場の前を通り、京浜大橋を直進すると、もうそこは空港へとつながる海底トンネルです。高速道路かと思われる様な真新しいよく整備されたトンネルを走る事一分、そこを抜けると、眼前には別世界、空港の施設が広がります。国道三五七号線から、左へ入ると上図のターミナル入路へと入り、到着エリア(一階)か出発エリア(二階)へ横付けです。城南大橋を起点にして、ここまで距離はおよそ四・五キロメートル、時間にして五分余りでした。羽田空港は、城南島の私達にとって庭先に有る様なまったく身近なものとなりました。日本中どこでも、空港のある都市ならば、日帰りのビジネスが可能となりました。城南島は、日本中を相手とするビジネスの最も有利な拠点となったと言って良いでしょう。また今後国際空港としても強化される事になっており、外国のお客さんが空港から我社へ直行というのも夢では有りません。この大きく変化した立地条件を、どう有効に生かしてゆか、城南島に働く、経営者も社員もここが知恵のしぼりどころでしょう。もちろん、ターミナルビルは、五階建てのふき抜けのおしゃれな建物に、デパート・レストランなど楽しいデートスポットとなっており、帰りが

羽田空港豆知識

昭和六年、東京飛行場が立川から羽田に移転して今年で六十二年になります。戦後アメリカ軍の接収拡大で、住民や穴守稲荷が四十八時間で強制立退きさせられた事は意外と知られていません。
 ○空港の役割
 利用者数 四千二百万人(全国の六割)
 離着陸 一日五百便

スラッジプラントの臭いはなくなるの

城南島ビジョン委員会にて、「南部スラッジプラントの悪臭問題」は、再三にわたる議論に取り上げてきました。そこで、このたび南部スラッジプラントの悪臭の現状と今後の対応策及び業務内容など陳情をかねて、南部スラッジプラントの滝本係長と森ヶ崎水処理センターの杉井次長にお話を伺ってきました。報告します。南部スラッジプラントは、昭和五十八年十月プラント運転し、一五〇名程の方々が三交替で勤務されています。そして、芝浦水処理センターと森ヶ崎水処理センターの水処理過程から発生する汚泥を処理する施設です。また、東京都は、芝浦・森ヶ崎水処理センターを含め一〇区部の水処理センターがあり、一日に処理する下水量は約五四〇万立方メートルになり実に東京ドームを升にすると約四杯分に相当します。そして、下水を処理すると汚水に近い汚泥が大量に発生し、東京区部で処理される汚泥は一日当たり約十一万五千立方メートル。これから水分を取り除いて量を減らし、環境に影響を与えないようにして、東京湾に埋め立てています。しかし、埋立地にも限度があります。そこで、東京都では「都市で発生する汚泥を都市でいかす」資源化を進めています。南部スラッジプラントでは、現在、汚泥の濃縮・脱水・焼却施設並びに汚泥資源化施設として、①汚泥燃料化施設(南部スラッジプラントに消費する電力として使用)②汚泥溶融施設(建設資材・ガラス・ペンダント)③メトロレンガ施設(公園・道路・歩道等舗装材に用いるレンガ)以上の施設があります。南

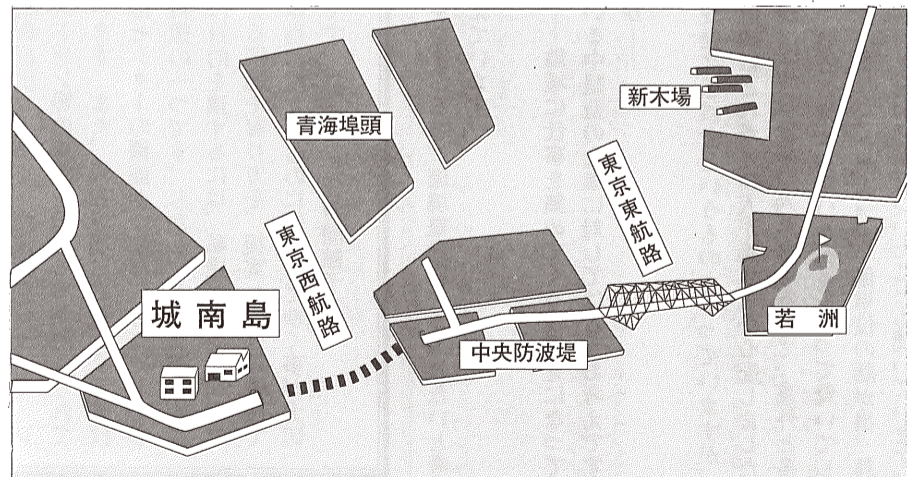
貨物運搬 年間四五万トン
 ○沖合展開事業
 増大する需要への対応、道路・鉄道等のアクセスの改善・騒音問題の解消・残土の有効利用等を目的に、第一期から第三期までの工事計画が有り、今回の西ターミナルの開設により二期工事計画までが終了します。第三期工事は、平成九年完成予定となっており、これによりA・B・Cの新滑走路がすべて完成し、離発着回数が増える十七万回から、二十三万回へ拡大できる様になり、東ターミナルビルも完成します。
 ○新ターミナルビル(愛称ビックバード西)
 規模 南北八百四十メートル 面積 二十九万二千平方メートル(日本最大の建物) ゲート数 二十四 航空機とすべて直結 立体駐車場 収納四千七百台(料金三十分二百円・十二時間超の場合三十分五百円)

部スラッジプラントに設備されたこれらの施設は、日本のトップ企業数社が共同研究の元に完成された最高水準の施設であり、海外からもいろいろな方々が視察されているとのことです。しかし、このようなすぐれた施設をもつても現実に悪臭の苦情がおきている現状を謙虚に受け止め、今後も悪臭発生しないようあらたに設備投資が決定したそうです。その解決策の一つは、森ヶ崎・芝浦水処理センターから船で送られた汚泥が棧橋から南部スラッジプラント内にある四百メートル程のコンベアで運ぶそのコンベアへ二年以内にカバーをつけることにより悪臭を遮断すること。一つは、工場内のマンホール等の穴などを再点検することで悪臭が大气に浮遊しないことなど金額にして数億から数十億もの莫大な予算をかけて悪臭漏れの改善を努めると同時に今後も汚泥資源化施設を増やしていくとのことです。最後に、今回陳情を兼ねて南部スラッジプラント内の施設を見学し感じたことは、私たち日常生活から発生し、下水道処理された汚泥でもあります。城南島各企業特に南部スラッジプラントに隣接した企業の方は一層悪臭のひどさに悩みも深刻だと思いますが、南部スラッジプラントもどうか悪臭が発生しにくい前向きに考えているようです。多少の工場地帯という事を考えあわせて我慢も多少しなければならぬかと思いましたが、今回の取材に御協力いただいた滝本係長と杉井次長にこの紙面を通じあらためて厚く御礼申し上げます。(M)

情報コーナー

◆東京臨海道路建設本格化する

城南島から、江東区若洲まで八キロメートルにわたって海上道路を建設するという、東京臨海道路の建設(平成十二年完成予定)の工事が本格的に開始されています。計画は、第一工区として城南島から中央防波堤埋立地(二・四キロメートル、平成一〇年完成)。第二工区として、中央防波堤埋立地から江東区若洲(四・六キロメートル、平成十二年完成)となっており、現在城南島では、陸上トンネル部及び、沈埋トンネル用立坑の工事が急ピッチで進められています。この工事が完成すると、城南島から中央防波堤まで、一四〇〇メートルが海底トンネルとなり、中央防波堤から若洲まで七六〇メートルが、海上にかかる橋となります。埋立地を結ぶこの道路は、臨海部の交通のキーポイントとしての城南島の役割をいっそう高める事になるでしょう。



◆残土処理施設改修

最近、残土運搬用トラックの数がめつくりと減った事にお気づきでしょうか。それもそのはずです。空港用地埋立用の残土は最盛期には年間三百万立方メートルも島内にもちこまれていたものが、空港用地埋立完成にともな

い現在は五〇万立方メートルと三分の一から六分の一となつてきているからです。しかし、都内の建設現場から出る残土は、ひき続き発生しており、都は現在の羽田へつながるベルトコンベア及び土搬船施設を撤去すると共に、施設を整備し、残土を必要とする全国の都市へ船で輸送する計画です。施設整備は、平成六年度前半には終わらせ、後半からは、年間五〇万立方メートル程度の残土が積み出される見込みです。

◆城南島沖に、新ゴミ処分地

東京都では、都内二三区から発生するゴミ類を、中央防波堤埋立地に埋立て処分をしていますが、平成七年には処分が限界に達する見通しとなりつつ有るため、都民にゴミ・産業廃棄物等の削減を呼びかけています。あわせて城南島沖(現在処分地の南側)に四八〇ヘクタールの広さを持つ海面処分場を計画しており、工事は平成七年から、平成八年からは稼働する予定です。

紙面あんない

城南島工業協同組合二階
 代表責任者 笠井秀男

食事処 とさや
 そば処

●営業時間
 月曜～金曜 AM11:00～PM3:00
 PM 5:00～PM7:30
 土曜AM11:00～PM2:00
 月曜～金曜PM5:00～PM7:00
 (出前)

☎(03)3799-9327・9777(代)
 〒143 東京都大田区城南島2-2-8

編集往来

昨年は、東京港ブリッジが開通し、我が城南島においていよいよ、大田区城南島―中央防波堤外埋立地―江東区若洲を結ぶ東京臨海道路の工事が始まり、羽田空港新ターミナルも完成致しました。景気回復の兆しが見えぬまま、昭和二九年以来の冷夏にみまわれ、踏んだり蹴つたり年の年でありましたが、我々の城南島周辺の交通基盤の整理が着々と進められているのが唯一の希望の灯火ではないでしょうか。小生も、今回の編集後記の担当になって以来果たして暗い話題を避けるには、ほんくら頭をひねり、原稿締め切り日を、私の猿波編集長にのびさせていただき、デスクに向かっているありさまなのであります。客先へ営業に伺つても、「景気悪いと言われ方には顔色も良いし、体重も減らないね」の、きつい一言に小生者のハートはさらに傷つく昨今です。(匿名希望の一編集員より)